

# 部活動などの活躍

## 《男子バスケットボール部》

荒川区新人大会

**優勝**

**都大会出場権獲得!**

最優秀選手 ○○ ○○さん(2-4)

優秀選手 ○○ ○○さん(2-1)

## 《女子バスケットボール部》

荒川区新人大会

**第3位**

優秀選手 ○○ ○○さん(1-4)

## 《薬物乱用防止ポスター・標語など》

### 薬物乱用防止ポスター

地区会長賞 ○○ ○○さん(2-3)

佳作 ○○ ○○さん(2-1)、○○ ○○さん(2-1)、○○ ○○さん(2-3)、○○ ○○さん(2-4)

佳作(地区) ○○ ○○さん(2-4)

### 薬物乱用防止標語

佳作(地区) ○○ ○○さん(2-2)

「薬物は 天使に化けた 悪魔だよ」

○○ ○○さん(2-4)

「考えて 壊れる自分 悲しむ周り」

### 明るい選挙ポスターコンクール

荒川区優秀賞 ○○ ○○さん(2-2)

荒川区佳作 ○○ ○○さん(2-3)

都大会出場  
おめでとう!



## 南千住マイスターのコーナー

毎日、多くの人が利用する南千住駅。南千住駅は、JR常磐線、営団地下鉄日比谷線、つくばEX線(エクスプレス)線の3駅が営業しています。その中で最も歴史が古いのがJR常磐線です。常磐線南千住駅は1896(明治20)年、当時の日本鉄道(株)の駅として開業します。

この路線は田端(土浦間(土浦線))を主に常磐炭田から産出される石炭輸送を目的にしています。その後1898(明治31)年、日本鉄道は田端(宮城界間)を全線開通させました。このときは、現在の山手線を経由して東海道線に通じるよう、田端駅が起点でした。南千住駅からは「隅田川貨物駅」につながる支線が分岐しており、重要な役割をもっていました。起点が田端だったため、上野発着の列車は田端駅でスイッチバック(進行方向を変える)方式で運行していました。1905(明治38)年、三河島(日暮里間)が開通し、田端駅でのスイッチバック運行が解消し、上野に直接乗り入れられるようになりまし。三河島から日暮里にかけて路線が不自然にカーブしているのはこのためです。翌1906(明治39)年には日本鉄道が国有化され、さらに1949(昭和24)年には日本国有鉄道(国鉄)が発足し隅田川駅とともに国鉄の駅になりました。

1962(昭和37)年には不幸な事故も起こっています。南千住(三河島間)で起こった「三河島事故」です。脱線した貨物列車に乗客を乗せた電車が衝突、乗客が避難し、線路上を移動していたところに別の電車が進入して跳ね、160人が亡くなり、296人がケガをするという大惨事でした。

1987(昭和62)年には、国鉄民営化によりJR東日本の駅になりました。2015(平成27)年3月には上野東京ラインが開業して品川まで乗り入れるようになり、ますます便利になりました。2014(平成26)年のJR南千住駅の1日の平均乗降客は15,902人はのほりです。常磐線は、東京と常磐・東北地方を結ぶ大動脈としての役割を担っています。



## 南千住の交通と産業 『南千住駅 ⑦JR常磐線』

南千住駅  
常磐線特急「ときわ」



学校だより  
令和三年12月  
第122号  
荒川区立南千住第二中学校



ナンちゃん・ニーくん

## 当たり前のありがたさ

校長 松田 公好

『無事』の意味を調べてみました。「普段と変わらないこと。」「過失や事故のないこと。」「健康でつづがないこと。」となっていました。他にもひまな状態や何もしないことという意味もあるようです。

私の自宅には神棚と仏壇があり、私は毎日それぞれに手を合わせて、朝はその日の無事を祈り、晩には無事に過ごせたことにお礼を言います。つまり普段と変わらず、事故なく、健康でいられることを祈り感謝しています。無事は当たり前のことではなく、むしろ無事でいられることは「有難い」ことではないかと思ひます。

人は誰でも病気や怪我をして体の自由を奪われると、普通に動けること・健康であることのありがたさを実感します。でも普段は普通に動けることが当たり前で、「無事」のありがたさに気づけない場合が多いように思ひます。無事は当たり前のことではないと思ひますが、当たり前と感じやすいのも事実です。それなら当たり前のことに感謝する気持ちをもてば良いと思ひます。

「当たり前のことに感謝できることが幸せにつながる」と言う人もいます。確かにいつも自分の現状に満足し、そのことへの感謝の気持ちをもちながら生活できるのなら、それはとても幸せなことだと思います。逆に自分の置かれた状況を嘆いたり悲しんだりしながら暮らすことは、とてももったいないことだとつくづく感じます。

コロナ禍となって丸2年になります。マスクなしが当たり前だったあの頃が、とてもありがたく感じます。しかし、マスク着用が当たり前となっている現状も、コロナ禍当初のマスクがなかなか手に入らなかった頃を思い出すと、これもありがたいと思ひます。

こうしてみるとありがたさを感じる事ができる「感謝の材料」は、考え次第でいくらでもあるように思ひます。不平不満の材料は探さなくても見つかってしまうので、これはできるだけ無視して、感謝の材料探しをしたいものです。

2021年も残すところあとわずかとなりました。一年間を振り返る時期です。この一年間の感謝の材料を探してみよう?そしてたくさんの感謝の気持ちとともに一年を振り返り、希望に満ちた新年を笑顔で迎えましょう。

皆様がたくさん笑顔の中で年末年始をお過ごしになることを、心よりお祈り申し上げます。よいお年をお迎えください。



## 生徒の手書き年賀状 ～一年間の感謝を込めて～





## 校外学習(南千住地域学習)

1年生

## 杜明パレード



秋晴れに恵まれた11月12日(金)の午後、1年生が南千住地域を巡る校外学習が実施されました。この日を目指して、各クラス6班に分かれ、タブレットや南千住検定の本などを使って南千住地域の史跡や名所を調べ、およそ2時間の見学コースを計画しました。全班が時間通り南千住二中を出発。素盞雄神社、円通寺、回向院、延命寺、浄閑寺、日慶寺、日枝神社などの寺社・仏閣を中心に回るコースや、コツ通り、思川・汨橋、江戸時代の武家屋敷の跡地・天王公園、日本初の毛織物工場の千住製絨所跡地・赤レンガ塀や東京スタジアム跡地の荒川総合スポーツセンターなどの史跡・名所を中心に回るコースなどを巡って、予定通りの時間に帰校しました。各班写真撮影をしたり、各地にある荒川区の名所・史跡を紹介する案内板の説明を見たり、メモを取るなどして、南千住の街を歩きながら学ぶことができました。また、班行動では、班員ひとりひとりが写真や記録などの役割を持ち、**時間とマナーを守り、協力しあって楽しく実りある校外学習**となりました。



12月5日(日)、南千住地区『社会を明るくする運動』の街頭パレードが行われました。南千住二中からは毎年レスキュー部と吹奏楽部が街頭パレードに参加。今年にはレスキュー部の1・2年生25名がボランティアとして、会場やパレードの準備や片付け、プラカードを持ってパレードに参加するなどしました。また、吹奏楽部32名は南千住二中の先頭に立ち、南千住二中の校庭をスタートして、コツ通り、仲通り、荒川一中までのコースを演奏しながら行進しました。この日演奏した行進曲は、「あらかわ〜そして未来へ」など3曲。1か月にわたり練習を重ねてきた合奏は息もぴたりで一体感にあふれた素晴らしいものでした。当日は**隊列の先頭に立ち、パレードをリードし、休むことなく長い道のりを演奏し続けました**。明るく元気なマーチングソングが街に響き、南千住の街がさらに活気あふれる1日でした。吹奏楽部の皆さん、レスキュー部の皆さんお疲れさまでした。



## オリンピック・パラリンピック講演会

土曜公開授業日の12月11日の4時間目に、感染症予防対策のため1学年のみ参加の**「オリンピック・パラリンピック講演会」**が行われました。講師には、**2020東京パラリンピックにシッティングバレーボールの選手として出場された佐々木一成選手をお招きしました**。佐々木選手からは、これまでの経験から障がいのある方が日頃から考えていることや実際の生活で困っていること、さらには、周りの人たちへの気配りの大切さなど心に残るさまざまなお話を伺いました。**最後にお礼の言葉を〇〇〇〇さん(1-1)、花束贈呈を〇〇〇〇さん(1-3)が行いました**。この日のお話をこれからの学校生活でも生かしていきましょう。

## 年賀状づくり

南千住二中では、区の『みまもりネットワーク事業』に登録している一人暮らしの高齢者の方々や南千住二中の『絆ネットワーク』に登録いただいている近隣の皆さまに年賀状をお送りする活動を行っています。今年も、**12月2日、7日、9日の3日間にわたり、美術部と1、2年生のレスキュー部の有志が集まり、放課後の時間を利用して、合計90通の年賀状を書き上げました**。一枚一枚に、日頃お世話になっている皆さまへの感謝とご健勝を願う気持ちが込められています。

## 街頭募金

12月7日(火)の放課後に、**1・2年生のスーパーレスキュー部の皆さんが南千住駅前で歳末たすけあい運動の募金活動**を行いました。夕暮れの寒風の中、街頭には、募金をお願いする元気な声が響き、帰宅途中の多くの皆さんが足を止めて、募金に協力してくださいました。集まった募金は、生活に困窮している方をはじめ、地域の誰もが安心して年末年始を迎えるための支援に使われます。ご協力ありがとうございました。



## ようこそ青年海外協力隊

12月16日(木)の5・6校時に、「ようこそ青年海外協力隊」が開かれました。まず、4階ホールで全体会が行われ、講師紹介が紹介されました。その後各教室に分かれ、青年海外協力隊として世界各国のさまざまな分野で活躍された講師の方々から現地での体験談などを伺う分科会が行われました。今回は講師として、タイで作業療法士として指導にあたった**國谷昇平さん**、アルゼンチンをはじめ世界各国で会社の経営管理に携わった**中西陽典さん**、イエメンで青少年活動を行った**三谷千花さん**、ガーナの職業訓練校で手工芸の指導を行った**湯野澤いづみさん**の4の方々にご来校いただきました。専門知識を駆使し、発展途上の国々のさまざまな分野で国際貢献してきた皆さんの体験談は写真や映像、実際に現地の生活で使うものに触れるなど臨場感にあふれ、日本との違いに驚いたり、異文化を理解することの大切さを気づかせてくださるもので、世界の国々に関心をもつとともに、これからの進路や将来を考える機会になりました。最後の全体会では、**〇〇〇〇さん(1-4)からお礼の言葉がありました**。

## 環境委員会 落ち葉掃き

毎年生徒会環境委員会では委員会活動の一つとして、早朝の落ち葉掃きを行っています。今年も、期末考査を挟んで前後の3週間にわたって、**生徒の登下校や近隣の生活道路として利用されている緑道や運動場周辺を中心に清掃を行いました**。

緑道から通学する生徒たちや近隣の皆さんと「おはようございます」と朝のあいさつを交わしながら一生懸命掃除をして、きれいになった校舎周辺や道路を見ると清々しい気持ちになります。この間に集まった落ち葉の量はゴミ袋10個以上にも上りました。環境委員会ではその他にも雨の日以外の毎日、**玄関周りの鉢植えや植栽への水やりを当番制で行っています**。環境委員会の皆さん、そして毎日朝早くから校舎内外の清掃をしてくださる主事さん方ありがとうございます。

